

---

# 当院における転院症例・死亡症例の検討

立木 裕、佐藤 智、福島久美子、加々谷智子  
今野奈保美、佐藤ゆき、高橋かんな、佐々木 ユミ  
渋谷由紀子、土屋由美  
立木医院

## Analysis of cause of death and changing hospital in Tachiki Clinic

Yutaka Tachiki, Satoshi Sato, Kumiko Fukushima, Tomoko Kagaya, Naomi Imano,  
Yuki Sato, Kanna Takahashi, Yumi Sasaki, Yukiko Shibuya and Yumi Tuchiya  
Tachiki Clinic

### <緒言>

当院は、平成16年10月に開院した泌尿器科・内科を標榜する無床診療所である。透析ベッド数は17床あり、比較的制限がゆるやかで自宅のリビングで透析を受けているような治療環境を目指している。開院以来4年がたち、この様な方針が、治療成績にどのような影響を与えているのかを調べるために、転院症例と死亡症例について検討した。

### <対象>

対象は、平成16年10月から平成20年10月までの4年間に当院で治療を行った維持透析患者74名である。転院・死亡症例は26名で、性別は男性18名、女性8名である。年齢は、22歳～85歳（平均70.5歳）、透析期間は2か月～22年4か月（平均5年8ヶ月）であり、そのうち当院での透析期間は2か月～3年3ヶ月（平均1年7か月）であった。

### <結果>

#### 1) 転院・死亡例：

転院・死亡例の原疾患は糖尿病が7名と最も多く、全体の54%を占めた。転院・死亡理由では脳血管障害が2名、閉塞性動脈硬化症や虚血性心疾患などの合併症の精査・治療のための入院中の突然死が2名、悪性腫瘍が2名などであった。アルツハイマー病による、急速に進行する認知症のために誤嚥性肺炎を起こした症例もあった。

#### 2) 転院・生存例

転院後に生存している症例では、脳血管障害が3名、認知症が2名などだが、6例中5例が入院透析が必要な状態である。

### 3) 転院・腎移植例

当院の特徴として、生体腎移植までの間に夜間透析を行う患者さんが多いことがあげられる。腎不全発症のために県外から帰郷した患者さんが、移植した患者さんや移植待機中の患者さんの影響で生体腎移植術を受けたケースも見られた。

#### <考察>

日本透析医学会 2006 年末の全国統計では透析患者の死亡原因の 1 位は心不全で 24.9%であり、次いで感染症 (19.9%)、脳血管障害 (9.4%)、悪性腫瘍 (9.2%) となっている。

当院の特徴は、脳血管障害による転院および転院・死亡症例が最も多い傾向にあった。また、認知症やうつ病のために要介護となり、あるいは介護する家族の問題で転院する症例も多く見られた。このような症例は入院透析を依頼する他に方法がなく、また、長期にわたり入院待ちとなることも多く、外来でも安全に透析を行うような対策が必要と考えられた。

悪性腫瘍は 2 例で見られた。定期的にエコーや C T、消化管の内視鏡検査をおこなっているものの発見が遅れており、対策が必要と考えられた。

当院の水分制限は比較的緩やかだが、心不全による転院・死亡例はなかった。

当院の特徴として、腎移植のための転院症例が 6 例あった。うち、1 例は他県から帰郷された方であり、移植推進のために良い影響を与えていると考えられる。

#### <結語>

開院 4 年間の転院症例・死亡症例について検討した。当院では、脳血管障害による転院および転院・死亡症例が多かった。また、認知症やうつ病のために要介護となり、あるいは介護する家族の問題で転院する症例も多かった。また、腎移植のための転院例も多く、腎移植推進に良い環境にある。